

らび、茶わんの大小によりてつくるべし。○圖

〔煎茶訣〕乾和名ちやわんいれ

經○茶には春とあり、此春とは蒲にて編み、チャワン十枚を巻きて、玄まひおくものとなり、今こ

こに圖せる如き、竹にて製せるを春とはいひがたし、按ずるに、是全く賣茶翁高遊外などの始て

製せるものならんか、こはチャワン五枚をいる、を度とす、漢製も漢名もなければ、予はこれを

茶蓋室と稱し、保壽と銘す。

〔新撰字鏡〕鉢音活反、入

〔倭名類聚抄〕鉢音撥、亦蓋、俗云、四聲字苑云、鉢博末反、字亦作蓋、見唐韻、學佛道者食器也、胡人謂之孟也、

○按ズルニ、天文本に俗云波知トアリ、

〔類聚名義抄〕鉢音ハチ、以音爲名、〔同皿〕蓋正鉢、布

〔伊呂波字類抄〕鉢雜物、鉢ハチ、學佛道者食器也、

〔釋氏要覽〕鉢梵云鉢多羅、此云應器、今略云鉢也、又呼鉢孟、即華梵兼名、

〔事物紀原〕什物器用鉢
本天竺國器也、胡語謂之鉢多羅、漢云應量器、省略彼土言、故名鉢、西國有佛鉢是也、宋廬江王以銅

鉢餉祖所、則是晉宋之間始爲中夏所用也、

〔和漢三才圖會〕鉢音撥、蓋本字、

按鉢即鐵鉢也、浮屠每用乞施有投米者、則發鉢受之、今俗磁器形似鉢者亦曰鉢、盛肉及菓餅等、

〔儀式〕踐祚大嘗祭儀

次各受大膳職中陶鉢十六口、中略、已上依

〔延喜式〕四時祭供神今食料中

鉢種類
以原質爲名

鉢名